

2019. **7**
No. **198**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第61回くらしのアンケートから～

要	約	1
1	家計の状況	3
2	耐久消費財の購入状況	4
3	外食	6
4	貯蓄	7
5	ローン等の利用	9
6	夏季ボーナス	10
7	お中元	12
8	夏休みの過ごし方	14

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が6.7%、「悪くなった」が17.3%、「変わらない」が76.0%。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△10.6となり、昨夏(△4.8)と比べて5.8ポイント悪化。県内景気は、緩やかな回復の動きに足踏み感が窺われており、また、米中貿易摩擦の長期化など先行き不透明感も増している。このようななか、勤労者の厳しい生活実感を反映した結果となっている。
- 家計上の悩みは「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金負担増」、「物価上昇」の順。3項目とも昨夏に比べて比率が上昇。収入が伸び悩むなかで支出の負担感が強まっている状況。

2. 耐久消費財の購入状況

- 耐久消費財の普及状況は、「テレビ」、「スマートフォン」、「パソコン」、「ETC」の順。
- 今後半年以内に購入希望のある耐久消費財は「ロボット掃除機」が最も多く、以下、「ハイブリッドカー」、「パソコン」、「スマートフォン」の順。

3. 外 食

- 月3回以内の利用が過半数を占め、平均利用回数は2.4回と、昨夏から若干増加。
- よく利用する店舗は「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「回転寿司・焼肉」(今回新設)、「中華料理店」、「ファストフード」の順。

4. 貯 蓄

- 平均貯蓄額は568万円で、昨夏に比べて20万円減少。
- 現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」の順。今後増やしたい金融商品は、「銀行預金」、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」の順。
- 貯蓄する際重視する点は「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「預け入れ引き出しが自由」、「利回りが良い」の順。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は28.6%で、平均借入額は1,012万円。
- 利用目的は「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金」の順。
- 借入先は「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」の順。

6. 夏季ボーナス

- 夏季ボーナスの予想は、4年連続で「減りそう」が「増えそう」を上回った。景気の先行きに不透明感が漂うなかで、勤労者が今夏のボーナス支給について慎重な見方をしている様子が窺われる。
- 平均手取り予想額は37万円と、昨夏に比べて2万2千円の減少。
- 使いみちは「貯蓄」が最も多く、以下、「買物」、「旅行・レジャー」、「ローン返済」の順。

7. お 中 元

- お中元を贈る予定者は、全体の 52.5%。贈る件数は「2 件以下」が最も多く、平均件数は 3.7 件で昨夏を下回る。
- 1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が最多。平均単価は 3,820 円（昨夏 3,973 円）、平均予算総額は 14,153 円（同 15,116 円）と、ともに昨夏に比べて減少。
- 贈りたい商品は「ビール」（含むビール券）が最多で、以下、「ハム」、「お菓子」、「食用油」、「果物」の順。

8. 夏休みの過ごし方

- 「日帰り旅行」が最も多く、以下、「国内宿泊旅行」、「スポーツ・健康づくり」、「帰郷」、「海外旅行」の順。
- 「国内宿泊旅行」の宿泊日数は「1 泊」が 5 割弱を占め、平均宿泊日数は 1.6 泊と昨夏（1.6 泊）と変わらず。

● 調査実施要領

調査対象：県内の勤労者 1,088 名

調査方法：当行の営業店を通じ対象者に依頼

回答者数：1,067 名（回答率 98.1%）

調査時期：2019 年 5 月下旬～ 6 月上旬

〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	250人	23.4%
	30 代	256	24.0
	40 代	244	22.9
	50 代 以 上	316	29.6
家 族	既 婚	711	66.6
	未 婚	353	33.1
性 別	男 性	525	49.2
	女 性	541	50.7
合 計		1,067	100.0

※ 合計には年代等未回答者を含む

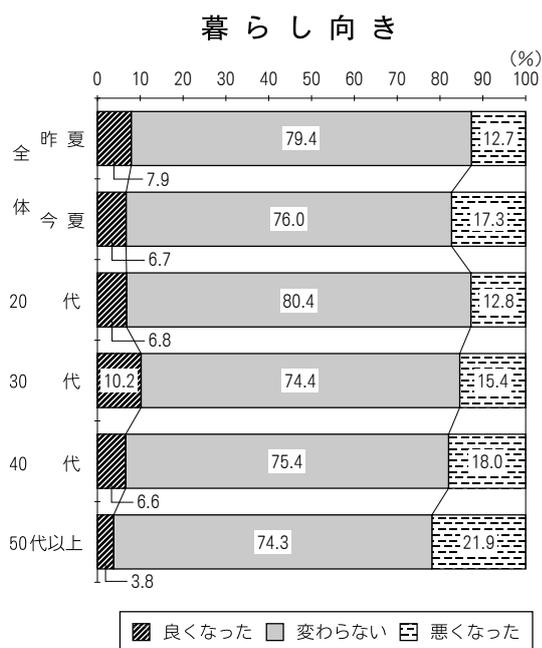
1 家計の状況

生活実感は前年よりも悪化

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が6.7%、「悪くなった」が17.3%、「変わらない」が76.0%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△10.6となり、昨夏（△4.8）と比べて5.8ポイント悪化した。

県内景気は、緩やかな回復の動きに足踏み感が窺われており、また、米中貿易摩擦の長期化など先行き不透明感も増している。このようななか、勤労者の厳しい生活実感を反映した結果となっている。

年代別にみると、「悪くなった」の回答比率は昨夏と比べてすべての年代で上昇している。20代が12.8%、30代が15.4%、40代が18.0%、50代以上が21.9%と年代が高くなるに連れて比率が上昇しており、主に中高年層で暮らし向きの厳しさを強く感じている様子が窺われる。

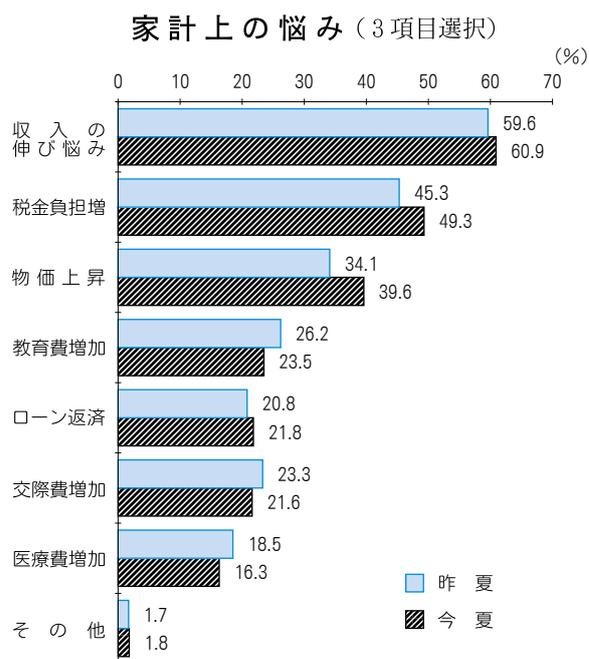


家計上の悩みは「収入の伸び悩み」が最多

家計上の悩み（3項目選択）は、「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金負担増」、「物価上昇」と続いた。

上位項目をみると、「収入の伸び悩み」が回答比率60.9%で引き続き1位となった。また、2位の「税金負担増」、3位の「物価上昇」も昨夏と比べると各々4.0ポイント、5.5ポイント上昇している。収入が伸び悩むなかで支出の負担感が強まっている状況が窺われる。年代別にみると、「収入の伸び悩み」で20代の回答比率が昨夏と比べて6.0ポイント上昇しており、若年層で所得環境に対する厳しい見方がなされている。

上記以外の項目をみると、「ローン返済」の比率が上昇した一方、「教育費増加」、「医療費増加」、「交際費増加」は低下した。



2 耐久消費財の購入状況

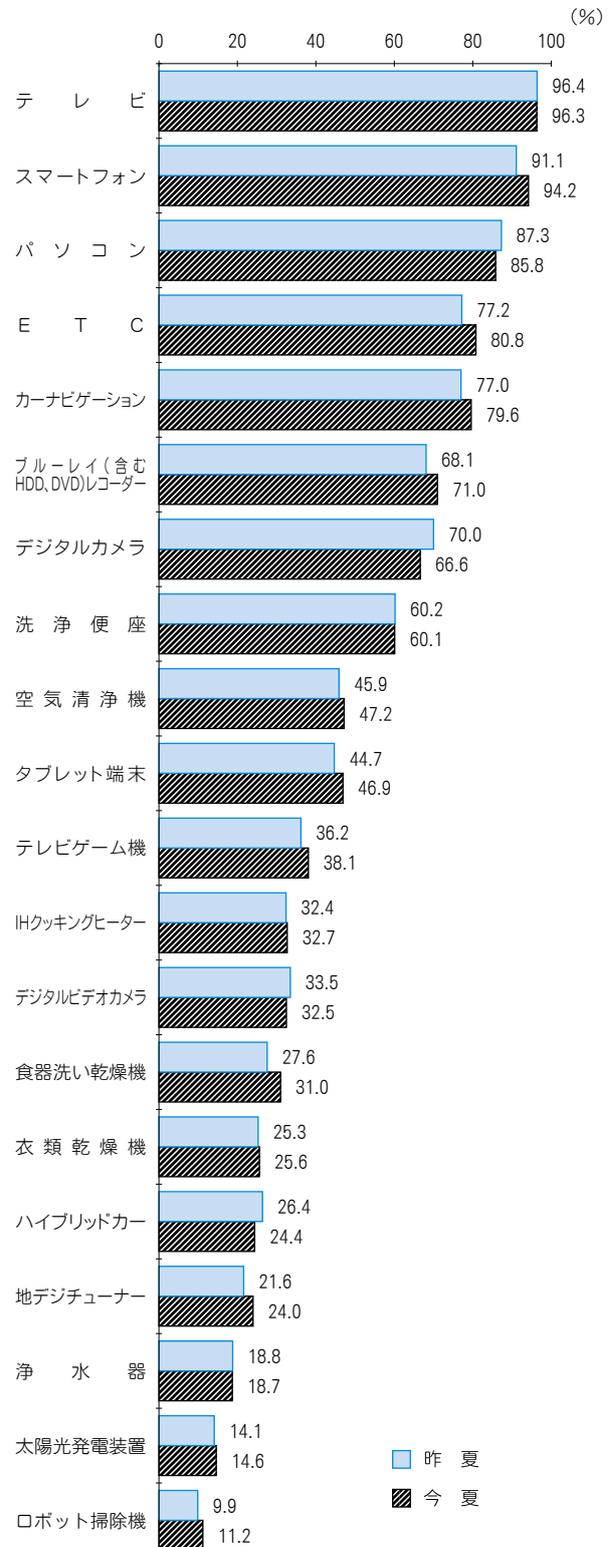
テレビ、スマートフォンの普及率が9割超

耐久消費財のうち、主要家電品など20品目についてその普及状況を見ると、「テレビ」(96.3%)、「スマートフォン」(94.2%)、「パソコン」(85.8%)、「ETC」(80.8%)の順となった。上位2品目は普及率が9割を超えており、同品目が広く普及していることを示している。

昨夏と比較すると、「スマートフォン」(+3.1ポイント)、「タブレット端末」(+2.2ポイント)の比率が上昇した。年代別にみると、「スマートフォン」は30代以上で、「タブレット端末」はすべての年代で上昇するなど、普及が進んでいる様子がみられる。一方、「デジタルカメラ」は低下が続いており、今回調査においても3.4ポイント下落した。スマートフォンの普及およびカメラ機能の向上により、同品目の使用機会が減少している様子が窺われる。

その他の品目では、「ETC」、「食器洗い乾燥機」、「ブルーレイレコーダー」、「カーナビゲーション」などが上昇した一方、「ハイブリッドカー」、「パソコン」、「デジタルビデオカメラ」などは低下した。

耐久消費財の普及状況



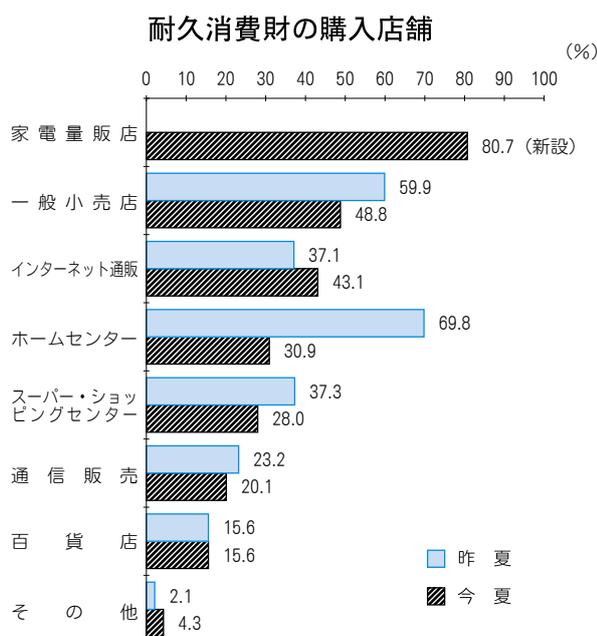
家電量販店がトップ

耐久消費財を購入した店舗（複数回答）は、「家電量販店」（今回新設）が最も多く、以下、「一般小売店」、「インターネット通販」、「ホームセンター」、「スーパー・ショッピングセンター」の順となった。

昨夏の本項目の選択肢が「ホームセンター・大型専門店」であったのに対して、今夏は「ホームセンター」、「家電量販店」に変更した。その結果、「家電量販店」が2位以下を引き離してトップとなった一方、「ホームセンター」は昨夏と比べて大幅に低下した。

その他の項目をみると、「インターネット通販」の比率が上昇した一方「一般小売店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「通信販売」の比率は低下した。

このうち「インターネット通販」の比率は4割を超えており、同項目が耐久消費財の購入手段として一般化してきている状況が窺われる。なお、利用率を年代別にみると、20代が42.8%、30代が50.4%、40代が45.1%、50代以上が36.1%となっている。

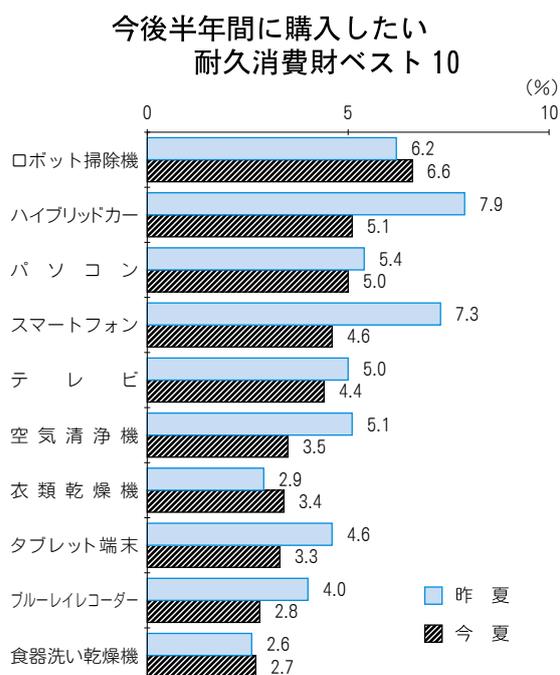


購入希望は「ロボット掃除機」が最多

今後半年以内に購入希望のある耐久消費財（複数回答、3品目以内）をみると、1位は「ロボット掃除機」で、以下、「ハイブリッドカー」、「パソコン」、「スマートフォン」の順となった。

上位品目の動きをみると、「ロボット掃除機」が0.4ポイント上昇し、初の1位となった。また、7位の「衣類乾燥機」（2.9%→3.4%）、10位の「食器洗い乾燥機」（2.6%→2.7%）の比率も上昇しているが、3品目とも特に30代、40代での上昇が目立っている。共働き世帯が増えるなかで、家事の効率化を図る「時短家電」の購入意欲が高まっている様子が窺える。一方、前回1位の「ハイブリッドカー」が昨夏比△2.8ポイント、2位の「スマートフォン」は同△2.7ポイントと大きく低下し、それぞれ2位、4位に後退した。

上記品目以外の動きをみると、「空気洗浄器」、「タブレット端末」、「ブルーレイレコーダー」などの比率が低下した。



3 外 食

外食の利用回数は月2～3回が最多

家族での外食の利用状況を見ると、全体の82.0%が毎月1回以上利用しており、その比率は昨夏（78.2%）から3.8ポイント上昇した。

内訳をみると、「月2～3回」が35.7%と最多で、以下、「月1回」（20.8%）、「ほとんどしない」（18.0%）、「4～5回」（14.7%）、「6回以上」（10.8%）となっており、月3回以内の利用が過半数を占めた。また、平均利用回数は2.4回で、昨夏（2.3回）から若干増加した。

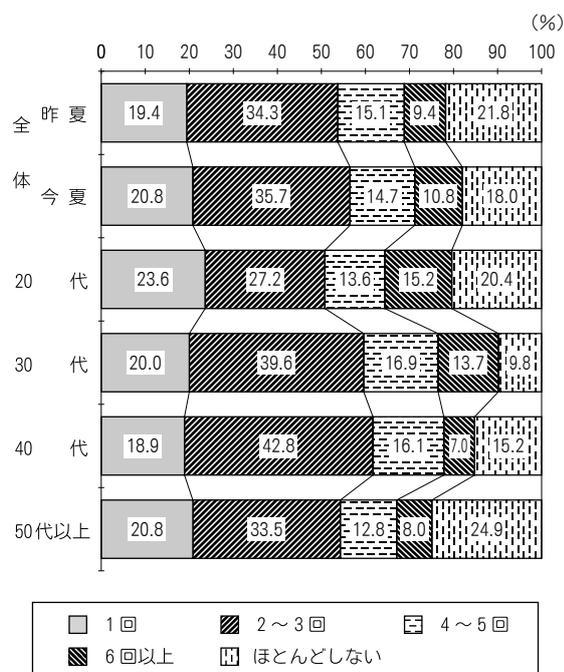
なお、年代別の平均利用回数は、30代が2.8回と最も多く、以下、20代、40代が2.4回、50代以上が2.1回となっている。

利用店舗はファミリーレストランがトップ

よく利用する店舗（3項目以内）は、「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「回転寿司・焼肉」（今回新設）、「中華料理店」、「ファストフード」と続いた。昨夏と比較すると、「中華料理店」、「ファストフード」、「洋食専門店」、「ファミリーレストラン」の比率が上昇した一方、「和食専門店」は低下した。

なお、今回新設した「回転寿司・焼肉」が50.6%で2位となった一方で、「その他」の比率は昨夏の44.4%から16.9%へと27.5ポイント低下した。このことから昨夏までの「その他」の回答には「回転寿司・焼肉」が多く含まれていたと考えられる。

外食の利用回数（1か月当たり）



よく利用する外食店舗（3項目選択）

	昨夏	今 夏				
	全体	全体	20代	30代	40代	50代以上
ファミリーレストラン	61.3	62.1	65.2	70.3	66.4	49.7
回転寿司・焼肉 (新設)		50.6	49.2	50.0	53.7	50.0
中華料理店	23.0	40.5	39.6	43.0	43.0	37.0
ファストフード	29.2	30.8	32.4	38.7	36.1	19.0
和食専門店	31.6	26.1	20.8	22.3	21.7	36.7
洋食専門店	16.3	17.6	18.8	15.6	18.0	18.0
その他	44.4	16.9	22.4	16.4	12.3	16.5

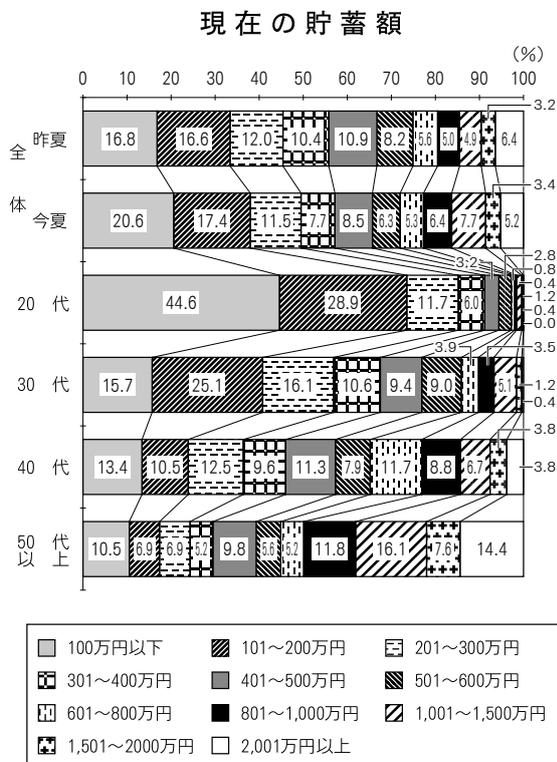
4 貯蓄

平均貯蓄額は568万円

現在の貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最多で、以下、「101万円～200万円」、「201万円～300万円」、「401万円～500万円」、「301万円～400万円」・「1,001万円～1,500万円」（同順位）の順となった。

また、平均貯蓄額は568万円（昨夏588万円）で、昨夏に比べて20万円減少した。

年代別の平均貯蓄額をみると、20代が177万円（昨夏比△23万円）、30代が370万円（同+3万円）、40代が607万円（同+18万円）、50代以上が1,033万円（同△28万円）となっている。

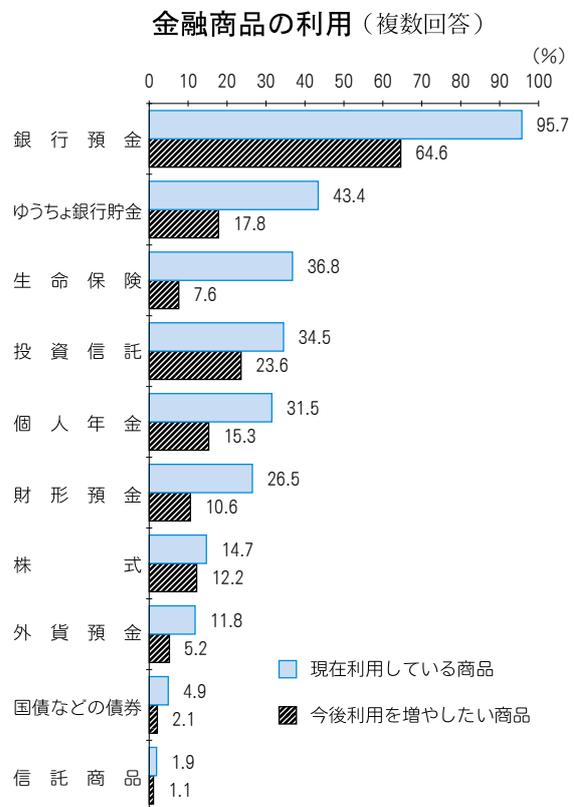


「投資信託」の利用率が過去最高

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が95.7%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「投資信託」、「個人年金」、「財形預金」の順となった。

利用率を昨夏と比較すると、「投資信託」、「財形預金」などが上昇した一方、「外貨預金」、「ゆうちょ銀行貯金」などは低下した。なお、「投資信託」の利用率は1999年調査に選択肢を追加して以降で最も高くなった。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」はすべての年代で95%超となっている。また、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「個人年金」、「株式」、「債券」は年代が高くなるに連れて利用率が上昇している一方、「投資信託」、「財形預金」は年代が低いほど利用率が高くなっている。なお、昨夏と比較すると、20代で「投資信託」（+9.3ポイント）が大幅に上昇している。



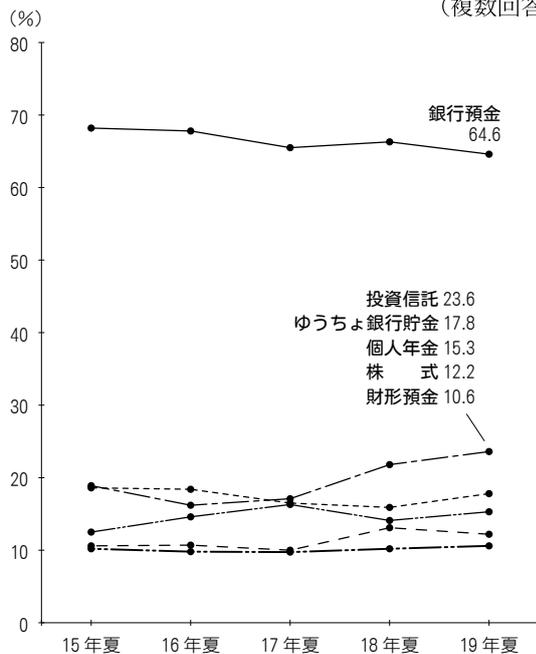
今後増やしたい金融商品も銀行預金が最多

今後増やしたい金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が最多で、以下、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」、「個人年金」、「株式」の順となった。

昨夏と比較すると、「ゆうちょ銀行貯金」、「投資信託」、「生命保険」、「個人年金」などの比率が上昇した一方、「銀行預金」、「株式」などの比率は低下した。

年代別にみると、各年代とも1位が「銀行預金」となっているが、2位は20代、30代、40代で「投資信託」、50代以上で「ゆうちょ銀行貯金」となっている。また、昨夏と比較すると、「ゆうちょ銀行貯金」はすべての年代で上昇した。

今後増やしたい金融商品の推移
(複数回答)



重視する点は「元金保証」が最多

貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「預け入れ引き出しが自由」、「利回りが良い」、「値上がり期待できる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となった。

昨夏と比較すると、「預け入れ引き出しが自由」などが上昇した一方、「利用金融機関のサービスが良い」、「勤務先が利用金融機関と取引している」などは低下した。

上位項目を年代別にみると、「元金の保証があり安心」は年代が高くなるに連れて回答比率も高くなっている。また、30代で「預け入れ引き出しが自由」の上昇、「値上がり期待できる」の低下が、40代で「利回りが良い」の上昇が、50代で「預け入れ引き出しが自由」の上昇、「利回りが良い」の低下が各々目立っている。

貯蓄する際重視する点（3項目まで選択）

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨夏順位
元金の保証があり安心	62.6	54.4	60.2	67.2	67.4	1
預け入れ引き出しが自由	48.4	50.0	54.3	43.9	45.6	3
利回りが良い	46.7	46.8	49.6	46.3	44.6	2
値上がり期待できる	26.2	31.6	24.6	27.9	22.2	4
利用金融機関が自宅から近い	20.6	18.8	18.8	20.5	23.4	5
利用金融機関のサービスが良い	12.7	15.2	9.8	9.0	16.1	6
勤務先が利用金融機関と取引している	6.7	6.4	7.4	7.4	6.0	7
利用金融機関が勤務先から近い	5.7	6.4	4.7	7.0	5.1	8
利用金融機関に友人、知人がいる	4.7	3.6	3.1	5.3	6.3	9
利用金融機関が集金にきてくれる	2.8	1.6	1.2	1.2	6.3	10
その他	0.4	0.0	0.8	0.4	0.3	-

5 ローン等の利用

平均借入額は1,012万円

ローン等の利用状況を見ると、利用者は28.6%で、平均借入額は1,012万円となった。

利用目的（複数回答）は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金」と続いた。

昨夏と比較すると、利用者の比率は0.4ポイント上昇したが、平均借入額は134万円減少した。また、利用目的では、「教育資金」、「自動車・家電品の購入」、「財テク資金」、「旅行・レジャー」などの比率が上昇した反面、「土地・住宅の購入」は低下した。

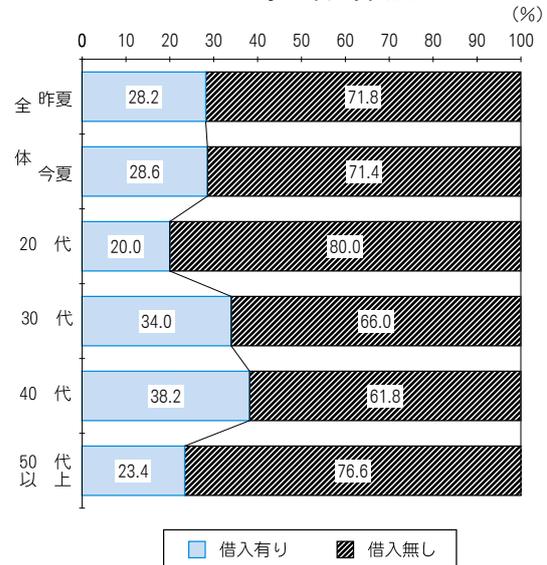
一方、借入先（複数回答）は、「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」の順となった。昨夏と比較すると、「その他」、「銀行以外の金融機関」、「政府系金融機関」の比率が上昇した反面、「銀行」、「勤務先」、「月賦・クレジット会社」は低下した。

これらを年代別にみると、ローン利用者はマイホーム需要が高まる40代が最も多く、以下、30代、50代以上、20代の順となっており、平均借入額は、20代463万円、30代1,009万円、40代1,182万円、50代以上1,148万円となった。

また、利用目的は、20代で「自動車・家電品の購入」、30代以上で「土地・住宅の購入」がそれぞれ最多となっている。

なお、借入先は、すべての年代で「銀行」が1位となっており、2位は30代で「銀行以外の金融機関」・「月賦・クレジット会社」（同順位）、40代で「月賦・クレジット会社」、50代以上で「政府系金融機関」となっている。なお、20代の2位は「その他」となっているが、同項目の回答（自由記述）をみると、日本学生支援機構など奨学金での利用が大多数を占めている。

ローン等の利用状況



ローン等の借り入れ先・利用目的

(複数回答)

		全体	20代	30代	40代	50代以上
利用目的	土地・住宅の購入	57.4	16.7	52.3	73.6	70.4
	自動車・家電品の購入	37.5	58.3	41.9	34.1	22.5
	教育資金	13.5	8.3	10.5	18.7	14.1
	旅行・レジャー	4.1	4.2	4.7	3.3	4.2
	教育資金以外の生活資金	3.0	0.0	2.3	5.5	2.8
	財テク資金	2.0	0.0	1.2	3.3	2.8
	その他	4.4	10.4	0.0	1.1	9.9
借入先	銀行	62.5	39.6	61.6	69.2	70.4
	月賦・クレジット会社	14.9	16.7	14.0	16.5	12.7
	銀行以外の金融機関	13.5	16.7	14.0	14.3	9.9
	住宅金融支援機構等政府系金融機関	9.5	4.2	3.5	12.1	16.9
	勤務先	2.0	0.0	0.0	3.3	4.2
	その他	8.1	22.9	9.3	3.3	2.8

6 夏季ボーナス

手取り額予想は減額が増額を上回る

昨夏と比べた今夏のボーナス（手取り額）の予想は、「増えそう」が8.3%、「減りそう」が32.3%となり、4年連続で「減りそう」が「増えそう」を上回った。

両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は、△24.0と昨夏の△8.4から15.6ポイント悪化した。米中貿易摩擦の影響などから景気の先行きに不透明感が漂うなかで、勤労者が今夏のボーナス支給について慎重な見方をしている様子が窺われる。

年代別にみると、すべての年代で「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。また、「減りそう」の比率がすべての年代で上昇しており、20代で7.3ポイント、30代で12.3ポイント、40代で16.8ポイント、50代以上で15.8ポイントの各々上昇となっている。

平均手取り予想額は37万円

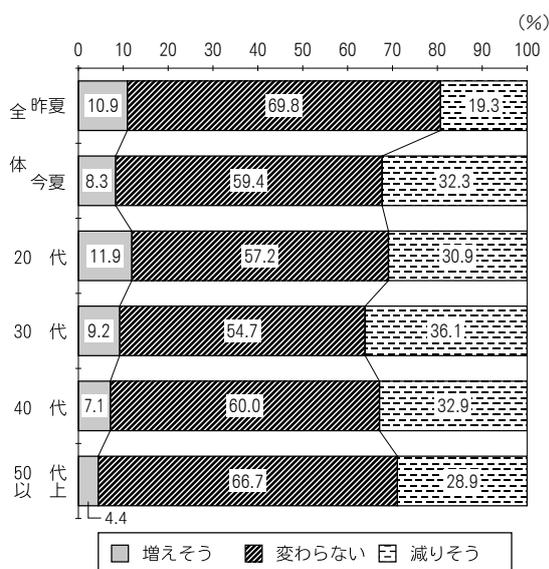
手取り予想額は、「1～20万円」が最も多く、以下、「21～30万円」、「31～40万円」、「41～50万円」の順となった。

昨夏と比較すると、「21～30万円」、「31～40万円」、「41～50万円」、「1～20万円」の比率が上昇、「71～100万円」、「51～70万円」、「101万円以上」の比率が低下した。

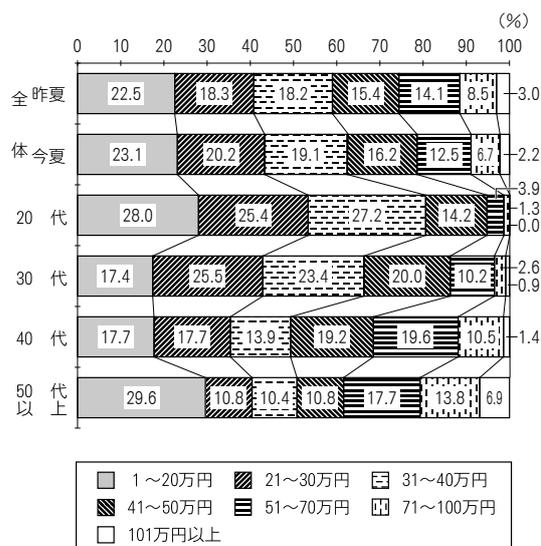
この結果、平均手取り予想額は37万円（昨夏39万2千円）と、昨夏に比べて2万2千円の減少となった。

年代別にみると、20代が28万5千円（昨夏28万1千円）、30代が34万6千円（同39万5千円）、40代が41万9千円（同43万円）、50代以上が44万1千円（同46万6千円）で、昨夏比では、20代が4千円の増加となった一方、30代、40代、50代以上が各々4万9千円、1万1千円、2万5千円の減少となっている。

夏季ボーナス増減予想



ボーナス手取り予想額



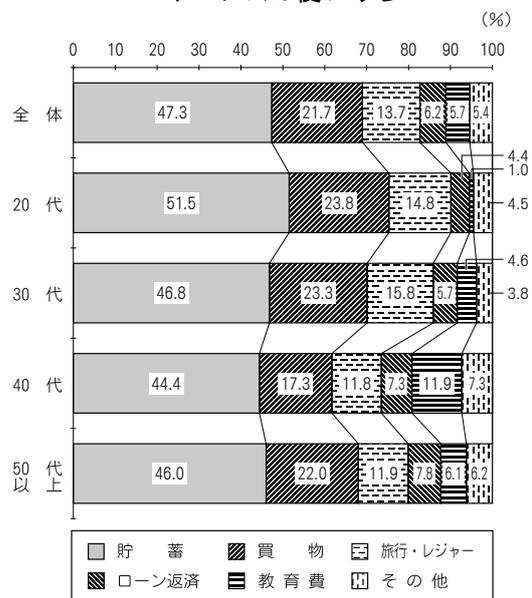
「貯蓄」の配分割合が半数近くを占める

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、次いで「買物」、「旅行・レジャー」、「ローン返済」となった。

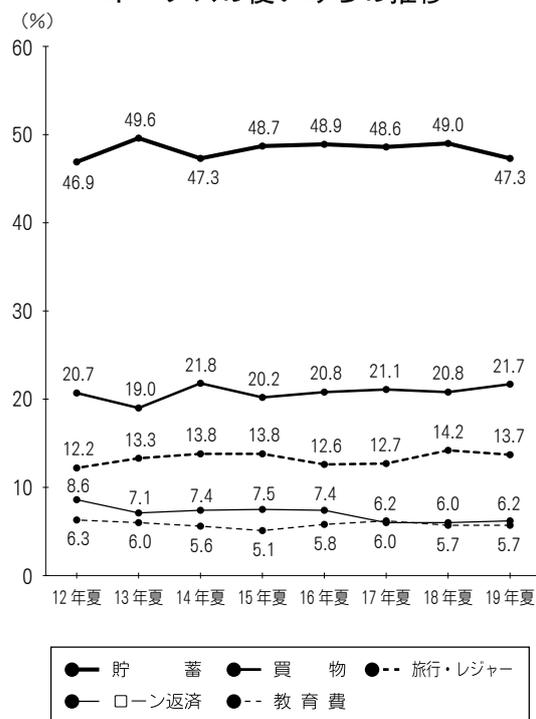
昨夏と比較すると、「買物」、「ローン返済」の比率が上昇、「教育費」は横ばい、「貯蓄」、「旅行・レジャー」は低下した。なお、「貯蓄」への配分割合はやや低下したものの、依然として半数近くを占めている。

年代別にみると、各年代とも1位は「貯蓄」、2位は「買物」となった。また、3位は20代、30代、50代以上が「旅行・レジャー」、40代は「教育費」となった。昨夏と比べると、すべての年代で「貯蓄」が低下している。「貯蓄」以外では、30代で「買物」の上昇、40代で「買物」の低下、50代以上で「買物」、「ローン返済」の上昇が各々目立っている。

ボーナスの使いみち



ボーナスの使いみちの推移



7 お中元

贈る件数は平均 3.7 件

今夏、お中元を贈る予定のある人は 52.5% で、昨夏 (57.1%) と比べて 4.6 ポイント低下した。

贈る件数は「2 件以下」が最も多く、以下、「3～5 件」、「6～9 件」、「件数未定」、「10 件以上」の順となった。昨夏と比較して「3～5 件」、「6～9 件」が低下した一方、「2 件以下」が上昇し、平均贈答件数は 3.7 件 (昨夏 3.8 件) と昨夏を 0.1 件下回った。

年代別にみると、贈る予定のある人の比率は 20 代が 28.9% (昨夏比△ 5.0 ポイント)、30 代が 43.5% (同△ 2.1 ポイント)、40 代が 58.6% (同△ 4.5 ポイント)、50 代以上が 74.1% (同△ 4.8 ポイント) となり、すべての年代で低下した。

また、贈る件数は、20 代、30 代で「2 件以下」が、40 代、50 代以上で「3～5 件」がそれぞれ最も多くなっており、年代別の平均贈答件数は、20 代が 2.4 件、30 代が 2.9 件、40 代が 3.5 件、50 代以上が 4.5 件となった。

平均単価は 3,820 円、平均予算は 14,153 円

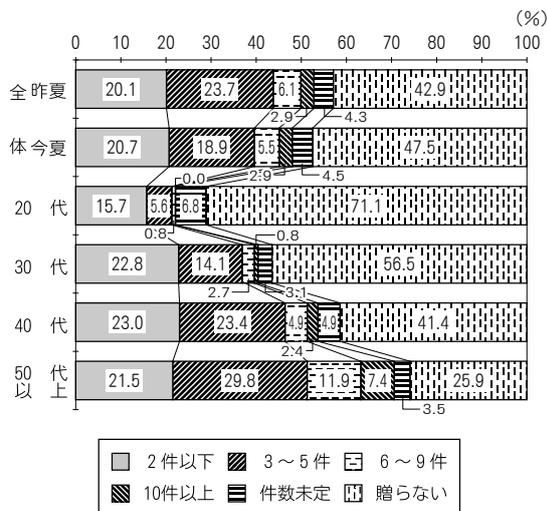
1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が 49.2% と最も多く、次いで、「5,000 円程度」が 37.1% となっており、この両方で 8 割超を占めた。

昨夏と比較すると、「2,000 円程度」、「3,000 円程度」が上昇し、「5,000 円程度」、「7,000 円程度」、「10,000 円程度」、「15,000 円以上」は低下したことから、平均単価は 3,820 円と、昨夏 (3,973 円) に比べて 153 円低下した。

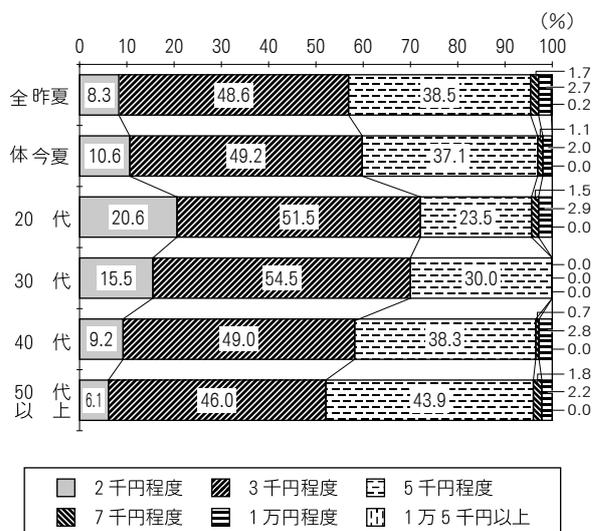
このように、平均贈答件数が前年をやや下回り、平均単価も低下したことから、平均予算総額は 14,153 円と昨夏 (15,116 円) に比べて 963 円減少した。

なお、年代別の平均単価は、20 代が 3,527 円、30 代が 3,445 円、40 代が 3,895 円、50 代以上が 4,046 円となっており、平均予算総額は、各々 8,477 円、10,005 円、13,650 円、18,230 円となった。

お中元を贈る件数



お中元の相場
(1 件当たり平均単価)



「清涼飲料水」、「日本酒」の支持率が上昇

お中元に贈りたい商品（5品目まで選択）は、「ビール」（含むビール券、以下同じ）が最多で、以下、「ハム」、「お菓子」、「食用油」、「果物」の順となった。上位品目を昨夏と比較すると、「ビール」が1位を維持するなか、「ハム」（昨夏4位）が2位に順位を上げるなどの変動がみられた。

支持率をみると、「清涼飲料水」（昨夏比+3.6ポイント）、「日本酒」（同+3.0ポイント）など、13品目が上昇した。一方、「商品券」（同△1.8ポイント）、「ビール」（同△1.7ポイント）など、7品目が低下した。

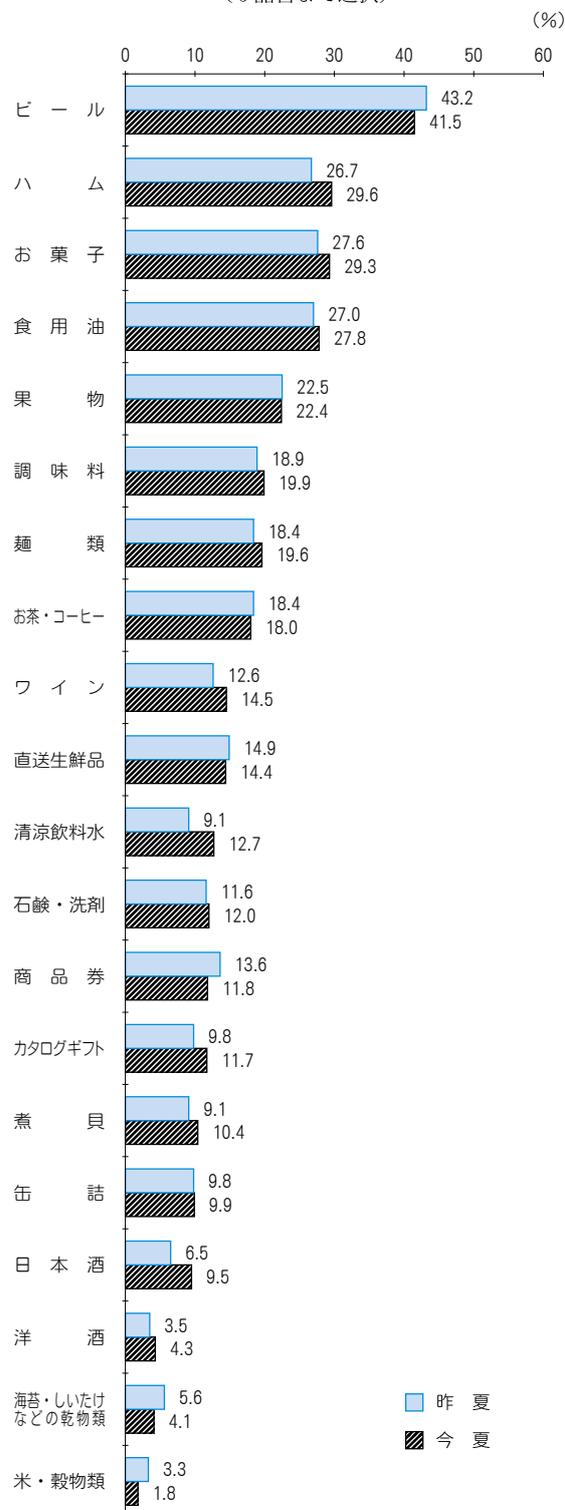
年代別にみると、各年代とも1位は「ビール」となっている。支持率を昨夏と比べると、20代で「麺類」、「ハム」、「ワイン」の上昇、30代で「カタログギフト」、「清涼飲料水」の上昇および「直送生鮮品」の低下、40代で「ワイン」、「清涼飲料水」の上昇および「食用油」の低下が目立っている。

お中元に贈りたいものベスト5

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)
2	お菓子	お菓子	ハム	ハム
3	ハム	食用油	お菓子	果物
4	食用油	ハム	食用油	食用油
5	果物	調味料	果物	お菓子

お中元に贈りたいもの

（5品目まで選択）



8 夏休みの過ごし方

「特に予定なし」の比率が上昇

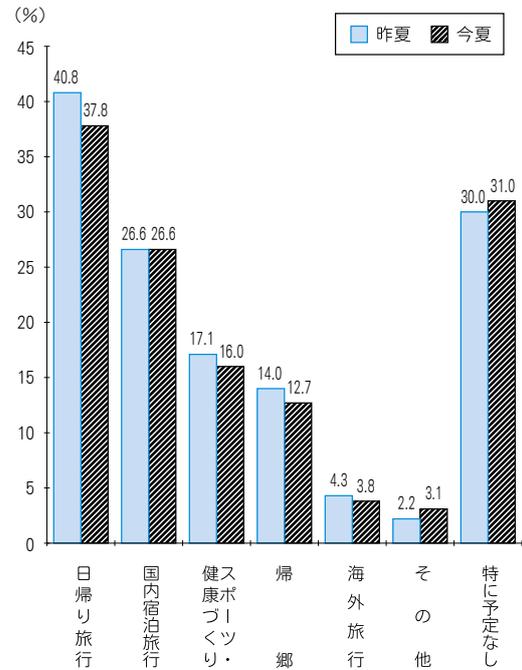
夏休みの過ごし方（複数回答）は、「日帰り旅行」が37.8%を占め最多となり、以下、「国内宿泊旅行」、「スポーツ・健康づくり」、「帰郷」、「海外旅行」の順となった。なお、「特に予定なし」は、31.0%となっている。

昨夏と比較すると、「特に予定なし」（昨夏比+1.0ポイント）などが上昇、「国内宿泊旅行」は横ばいとなり、「日帰り旅行」（同△3.0ポイント）、「帰郷」（同△1.3ポイント）、「スポーツ・健康づくり」（同△1.1ポイント）などは低下した。

年代別にみると、20代、30代、40代で「日帰り旅行」が、50代以上で「特に予定なし」が最多となった。20代、40代では「日帰り旅行」の比率が昨夏比で低下したのに対し、30代では上昇した。また、30代、40代の「国内宿泊旅行」が昨夏比で上昇した。

「国内宿泊旅行」の宿泊日数をみると、「1泊」が48.5%を占め、以下、「2泊」（38.2%）、「3泊」（13.2%）となった。

夏休みの過ごし方（複数回答）



平均宿泊日数は1.6泊で、昨夏（1.6泊）と変わらなかった。

夏休みの過ごし方（複数回答）

(%)

	日帰り旅行	国内宿泊旅行	スポーツ・健康づくり	帰郷	海外旅行	その他	特に予定なし
20代	44.0	28.8	21.6	10.0	4.8	2.4	26.0
30代	41.4	29.7	15.6	15.6	4.7	3.9	23.0
40代	38.9	32.0	13.5	13.9	1.6	2.9	31.6
50代以上	28.8	18.4	13.9	11.1	4.1	3.2	41.1
全体	37.8	26.6	16.0	12.7	3.8	3.1	31.0

山梨中銀 自分にピッタリのコースではじめよう!

資産づくり応援! 2019SUMMER キャンペーン

期間 2019年6月10日(月)~2019年9月30日(月)

対象 対象商品をご契約(預入)いただいた個人のお客さま(新規または増額の契約(預入)を対象とさせていただきます)

コツコツ!
応援コース

まとめて!
応援コース

特典
1



先着4,000名様に
プレゼント!

3サイズの
アニマル保存容器セット

冷凍
保存
OK



- インターネットでご契約いただいたお客さまは、窓口までお申し出いただけますよう、お願いいたします。
- キャンペーン期間中、景品は一人さまおひとつとさせていただきます。(柄は品切れによりご希望にそえない場合がございます)



特典
2



さらに!
カタログギフト ミストラル-Sage-が
当たる!ダブルチャンス!



抽選で
50名様に

- 対象商品ごとにキャンペーン期間中の累計取引金額に応じて抽選権をお付けいたします。応募のお手続きは不要です。●キャンペーン終了後、当行所定の方法により、厳正な抽選を行います。キャンペーン期間中に解約の場合、抽選権は無効となります。●当選者の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。(2019年12月中発送予定)●転居先不明などで連絡が取れない場合は、当選を無効とさせていただきます。

株式会社山梨中央銀行 / 登録金融機関 関東財務局長(登金)第41号 / 加入協会 日本証券業協会

ホームページへアクセス

山梨中銀

検索



皆さまに役立つ情報を
いち早くお届けします。

LINE@

@yamanashibank



店頭またはATMコーナーに、
くわしいキャンペーン内容を記載した
リーフレットをご用意しております。

くわしくは山梨中央銀行の窓口 または フリーダイヤルへどうぞ
ふ れ あ い ハ ロ ー に

0120-201862 照会コード 9

(受付時間)月曜日~金曜日 9:00~17:00(ただし、祝日・12/31~1/3は除きます。)

山梨中央銀行

https://www.yamanashibank.co.jp/

(2019年6月10日現在)